

●若手の会運営委員会活動報告

松田哲也（委員長）、奥村 哲、宮川尚久、中島龍一、徳永 太、小泉 周、勝亦憲子

1. 若手の会運営委員会発足

これまで、若手の会は数名の有志により世話人会をつくり、若手の会主催の活動を世話人が中心となり運営を行ってきた。現在では若手の会（一般）会員も400名ぐらになりこれまでより運営体制をしっかりとしていく必要性がでてきた。そこで、これまで日本生理学会若手の会世話人という形で若手の会の運営を行ってきたが、平成16年12月1日より日本生理学会若手の会運営委員会と名称を変更した。そこで、各細目が下記のように変更になった。

- ・運営委員の任期は2年とする。
- ・運営委員は10名以内とする。
- ・運営委員の中から運営委員長（1名）、会計（1名）が選出される。
- ・運営委員長、会計の任期は2年間とする（再選は妨げない）

その後、第82回日本生理学会大会時に行われた、日本生理学会常任幹事会、評議委員会において若手の会運営委員会が生理学会の常置委員会とすることが認められた。

2. 生理学会年会（札幌）でのシンポジウムの開催

平成16年6月4日（金）会場 第81回日本生理学会大会会場内（3日目）

テーマ「生理学は心脳問題をいかにとらえるべきか？」

シンポジストに、学会外から茂木健一郎さん、竹内薫さんの2名をお招きし、開催した。

事前の打ち合わせがあったことにより、当日の内容にまとまりができ、聴衆からは多くの質問や意見が出るなど、活気あるシンポジウムとなった。終了後の反響は例年よりも大きかった。

3. スチューデント・サイエンティスト・プログラム（SSP）

本プログラム（SSP）は、学生の理科離れや研究指向をもつ優れた学生の生理学離れに対していかに対処できるか？ 生理学会をより活性化していくにはどのような方策が考えられるだろうか？ という問題意識にもとづいて、日本生理学会若手の会が企画した。将来の生理学を担う若い逸材を学会独自に発掘し、彼/彼女らに自らの手で実験/観察を行い、その結果を発表する機会を与えることが本プログラムの骨子です。2003年のSSPは前例のない第1回目の開催であったにもかかわらず、4名の発表学生（学部生中心）を含めて11名の熱心な参加を得ることができた。

プログラムでは「手ぶれ補正機能をもつビデオカメラのファインダーを覗き続けることで生じる高周波数に応答する特有な酔い」について、低周波成分に応答する乗り物酔いとの違いなどを明らかにした医学部学生による研究など、学生独自のユニークな視点で進められた研究が発表された。各発表については若手間で議論すると共に、曾我部正博教授（名古屋大学医学部）にも貴重なアドバイスを頂いた。参加者のアンケートの結果は、概ね好評でこのような企画には学生側からも一定程度の要望があることがわかった。生理学会将来計画委員会、および、第81回日本生理学会大会当番幹事の先生方、および当日貴重なアドバイスを下さった曾我部教授のご協力に感謝致します。

日程：2004年6月4日（金）17：30—6日（日）

朝解散

会場：NTT北海道セミナーセンター

4. 若手の会メーリングリストの運営

若手の会主催の行事に参加した人、メーリングリスト（ML）参加希望者がメーリングリストの

会員となっている。現在約400名が登録している。サーバーはセキュリティのこともあり比較的安全的なUMINのものを使用している。MLでは、研究会やジョブハンティングなどの情報などを中心に配信している。基本的に誰でもMLに登録できますのでMLに参加ご希望の方は管理人の宮川尚久(n-miyakawa@brain.riken.jp)までご連絡ください。

5. ネーア博士インタビューの記事

平成15年11月に、来日中のネーア博士にインタビューさせて頂いた。その結果を、インタビュー記事という形で、翌平成16年春に公表した(日本生理学雑誌66 3, 2004および日本生理学若手の会ホームページ)。

公表後は様々な形で反響が届けられた。概ね好評であったが、同時に、疑問や批判、誤訳の指摘などが寄せられた。

6. 若手の会ホームページの運営

若手の会会員相互の情報交換や、若手の会主催の行事の告知、および記録の公開等を目的に98年よりホームページを運営している。これは何度かの更新を経て現在は、若手研究者データベース(会員自らがパスワードをもって管理できる若手の会の会員データベース)、若手の会主催イベントの告知や過去の開催行事の記録、ネーア博士インタビューの記事などの若手の会会員による情報

発信、若手の会会則、その他のリンク集などで構成されている。今後はさらに独自のコンテンツを充実させていきたい。

生理学若手の会HPのURL：<http://physiol.cognitom.com/>

7. 生理学若手サマースクール2004の開催

平成16年8月1日(日)～3日(火)

会場 東京医科歯科大学講堂

テーマ「運動制御のシステム的理解」

昨年度は会場の関係上定員を200名とさせていただいたのだが、残念ながら定員に達してしまっただけで参加できない参加希望者もいた。アンケートから参加者は生理学の基礎を学べる場を求めていることがわかった。参加者は医学、工学、心理学、薬理学、体育学、その他といった幅広い分野から集まっており、学際的なスクールとなっている。今回は運動制御をテーマとしたが、運動制御に関連する脳部位ごとに各先生に講義していただいた。大脳皮質、大脳皮質下、脊髄と一部分の領域、機能のみを取り扱うのではなく、全体をこのような短期間で学べる機会は貴重であると思う。また全体を学ぶことができることで情報の流れ(ネットワーク)までも理解できやすくなっているのではないかと思う。参加者でかつ希望者には「修了証」を発行している。本年度からは日本生理学会から発行することになった。

●生理学若手サマースクール2005 開催報告

玉川大学学術研究所脳科学研究施設 松田 哲也

毎年、サマースクールが終わると気が抜けると同時にホッとしてしまい、この開催報告を書くのは次の年の開催についてのお知らせを日生誌に掲載する頃になってしまっていました。本年は今年の夏の暑さが残っているうちにお届けできましたでしょうか？ 気が抜けるとはいいっても、実は本年度のサマースクールが終了すると同時に来年度のサマースクールの準備を始めています。会場の予約は1年前から予約開始というところが多いのですが、いい場所、いい時期という2つが揃うと予約開始日には予約がはいってしまいます。また都内で200～300名集まることができる格安の会場を押さえるのは至難の業です。先日、会場の下見に行き来年度の予約をしてきました。ということで、来年も「生理学若手サマースクール2006」を開催することが決定しました。

毎年恒例となった生理学若手サマースクールも今年で5回目を迎えました。今年は8月7日（日）～9日（火）に東京医科歯科大学5号館講堂で「情動・感情の生理学的理解」をテーマに開催しました（本年度のプログラム・テキストはサマースクールのホームページ（<http://www009.upp-so-net.ne.jp/susumu/summer2005.html>）からダウンロードしていただくことでご覧になることができます。またご覧になる際にはパスワード（2005summerschool）が必要です）。本年度から日本生理学会主催に加え、文部科学省特定領域研究「統合脳」5領域が後援に加わっていただきました。振り返ると5回というのは、長くも短くも感じられます。これまでにサマースクールで講義をしていただいた講師の数は40名を超えています。講演料に加え交通費までも無料であり、しまいにはテキストまで執筆させられるというこの劣悪な扱いの中、引き受けていただいた講師の先生方には依頼しておきながら本当に感謝しておりま

す。そしてひとえに講師の方々による講義の質がよいという評判から、やる気のある質の良い参加者を毎回200名集めるようになったのではないかと思います。またこのサマースクールの講義がきっかけとなって、全く生理学とは違う異分野にいた方が生理学教室の大学院に入学したという話も耳にするようになりました。それにこれまではサマースクールでは生理学会への入会手続きは行ってきませんでしたが、今回から参加者に日本生理学会の内容を紹介し、初めて入会受付を行いました。その結果学生会員18名、一般会員2名、合計20名の新規入会をうけました。内訳もほとんどの方が医学系以外の方でありました。このサマースクールを通じて、生理学の重要性、おもしろさに気づいていただけたのではないかと思います。

またサマースクールの運営方法に関しても今年からプログラム・運営委員会を設置し多くの方の意見を反映させるようにしました。今年度は委員長を高橋 晋先生（京都大学大学院文学研究科心理学研究室）にお願いし、高橋英彦先生（放射線医学総合研究所）、宮川尚久先生（理化学研究所脳科学総合研究センター）、政岡ゆり先生（昭和大学医学部第二生理学）、勝亦憲子先生（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科）、鹿中紀子先生（日本大学医学部精神医学講座）、本下真衣先生（東京医科歯科大学大学院心療緩和医療学）の各先生方に委員になっていただきました。多分野の方が運営に関わっていただくことで、より学際的なスクールになるのではないかと考えています。

来年は6回目になりますので、これまでとちょっと違った企画を盛り込んでみようと考えています。これまでは、参加者による発表の機会がありませんでしたが、来年からレセプション会場でポ

スター発表をしてはどうかと考えています。このポスター発表は、まだ完成していない研究途中のものでも、また現在計画している計画案の発表でもいいと思っています。というのも様々な分野の方が参加されているので、このサマースクールが自分では考えもつかないようなアドバイスをもらえるよい機会になってほしいと思っているからです。

来年は、7月31日（月）～8月2日（水）国立オリンピック記念青少年総合センター（東京・代々木）を会場に「生理学若手サマースクール2006」を開催いたします。これからテーマ、プログラムをプログラム・運営委員が中心となって決めていきます。これまでの参加者からのアンケー

トを参考にして、これまでと一味変わったサマースクールを企画できればと思っています。来年のサマースクールのプログラム・運営委員を募集しています。興味がある方は松田までご連絡ください（tetsuya@lab.tamagawa.ac.jp）。

最後に、アドバイザーでありサマースクールに毎回参加いただきご挨拶していただいている金子章道教授（前日本生理学会会長・現IUPS会長）、泰羅雅登教授（日本大学大学院総合科学研究科）、サマースクール開催にあたり様々な協力をいただいている岡田泰伸教授（日本生理学会会長）をはじめ、お忙しい中講義をしていただきました講師の先生方に心より感謝いたします。